

愛知県新城市鳳来寺山周辺：西部支部巡検会報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-09-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森田, 明宏 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00027681

西部支部巡検会報告 愛知県新城市鳳来寺山周辺

森 田 明 宏

平成31年1月14日に、静岡県地学会西部支部の巡検会が、愛知県新城市鳳来寺山周辺の地質をテーマとして行われた。午前10時に鳳来寺山自然科学博物館に集合。参加者は県内の会員5名、愛知県からの非会員3名の計8名。案内は鳳来寺山自然科学博物館学芸員の西村拓真氏にお願いした。観察ポイントは図1に示した。



1. 鳳来寺山自然科学博物館 (P1)

最初に、学芸員の西村氏より鳳来寺山自然科学博物館(図2)の展示物について、地質関係を中心にガイドツアーをしていただいた。中央構造線・松脂岩・化石類・鉱物・砂泥互層・地質と関連した動植物や産業などの説明をしていただき充実した内容であった。

図1 国土地理院の地理院地図 電子Webを引用・加筆



図2 鳳来寺山自然科学博物館



図3 馬背岩

2. 馬背岩 (P2)

自家用車の相乗りにて、湯谷温泉街の駐車場に移動。車を駐め、歩いて数分のところにある国指定の天然記念物である「馬背岩」(図3)に行く。宇連川に露出している凝灰角礫岩中に貫入した安山岩の岩脈であり、柱状節理が発達し、かつ差別侵食を受け、凸状に残り馬の背骨のように見える。また、このすぐ上流には「湯谷の大滝」がある。これは川底が浅く木材を流して運ぶのに不都合なため、
静岡県立浜松湖東高等学校

明治時代に人工的に掘られたものである。

3. 不っ田の七滝 (P3)

花崗岩起源の断層岩にかかる滝である。ポットホール（河底などのくぼみに礫が入り，流水によってその礫が回転し，その侵食によって円形の穴になったもの）も見られる。

4. 中央構造線の睦平露頭 (P4)

「不っ田の七滝」より，整備されていない山道を徒歩で10分ほど登った不っ田の七滝をつくる沢の上流にある2005年に発見された中央構造線の露頭（図4）である。図4の中ほどより上部が領家帯，下部が三波川帯である。



図4 中央構造線（睦平露頭）

5. 細川断層 (P5)

中央構造線の副断層であり，紹介の看板も設置されているが，防災のための網もかかり，草木も生え，残念ながら観察するのは困難な状況である。

しかし，ここから南を望めば中央構造線の断層地形を望むことができる。

6. 阿寺の七滝 (P6)

国の天然記念物に指定されており，ここの礫層中には礫が破断してくいちがっている「くいちがい石」(図5)が含まれていることでもよく知られている。「くいちがい石」の成因には諸説あるようだが，その一つは，中央構造線を主とする断層運動により礫が破断し，そのときの摩擦熱により破断面が溶けて再度固結したのではないかと考えられるものであるとのことであった。

阿寺の七滝で，参加者集合写真（図6，今村会員撮影）を撮り，今回の巡検会を終了とした。鳳来寺山自然科学博物館学芸員の西村氏には，新城市地質図をはじめ種々の資料を用意していただき，案内とともに，現地での丁寧でわかりやすい説明をしていただいた。お礼申し上げます。ありがとうございました。



図5 くいちがい石



図6 参加者集合写真